

映画「2887」堂々完成、劇場公開！

9月25日(土)・26日(日)・27日(月)・28日
(火)

14:40 17:10

10:50 13:20

14:40 17:10

14:40 17:10

東京 シネマハウス大塚 JR 大塚駅下車 7分(都立文京高校前)

9月11日(土)~18日(金)横浜のシネマ・ジャック&ベティ

上映時間は劇場サイト・HPで (ユーチューブに予告編をアップしました)

映画『2887』の製作・配給支援にご協力を！

一口 5000 円からの支援でご協力ください！

ゆうちょ銀行 口座記号番号:00290-8-107698

加入者名:映画で社会を読む会

こちらの口座にご入金ください。

お名前とご連絡先を明記してください。

映画『2887』の上映会を企画してください！

小さな集会から大きな集会まで対応いたします。

連絡先 : eig2887@outlook.jp 「映画で社会を読む会」 090-4946-5579 (河野)

安倍首相、評価するのはあなたです！

制作した私たちは、映画制作のプロではありませんが、私たちが見たい映像と、聞きたい人の声を紡いできました。安倍首相は息を吐くように嘘をつく、と言われます。そして、この嘘に合わせて社会は回ります。政治家も官僚もメディアさえも安倍首相の嘘の同調圧力に飲み込まれて行くのです。だからこんな危うい社会があったこと、それでも異を唱えた人たちがいたことをしっかりと記憶したいと考えました。 映画『2887』監督 河野 優司

必見のドキュメンタリー

この作品は、日本の民主主義が破壊されていく過程を描いた同時代史だ。荒野と化した社会を、少しでも真つ当な形に築き直すには、果てしのない時間を要するに違いない。これは、見て楽しめるエンタテインメント作品ではない。だが、この国の現実を直視し、ではどうすればよいのかと自問自答する契機とするには、必見のドキュメンタリーだ。やむにやまれぬ

思いで、退職金を投げ打って製作に没頭した監督と、学生時代の映画研究会以来という、素敵な仲間たちに、心から拍手を送りたい。

ジャーナリスト 齋藤

貴男

もう笑うしかない！

モリだのカケだの、友人のソバに寄り添って、国民のソバにはいなかったアベ首相。そんな人が歴代の首相の中で在任期間が最も長かったなんて恥ずかしい。コロナ対策も「空前絶後の規模で世界最大の対策」をやってくれました。それが「マスク二枚！」。しかも、小さいのです。口を覆うと鼻が出ます。鼻を覆うと口が出るのです。そうか、だから、二枚だったんですね。二枚が好きなんです、アベさんは。だって、舌が二枚舌です。これでは国民の期待に応えられるわけがない。もう笑うしかないです。さあ、映画を観て、怒って、そして笑いましょう。

お笑い芸人 松元 ヒロ

アベ政権の無策を肌で感じて！

安倍晋三政権は、憲政史上最長の在任（罪人）期間を記録したという。では、いったいそのあいだ何を成し遂げたのだろうか。「空白の 20 年」と巷間叫ばれているが、この国の社会生活を戦後最悪にぶち壊した安倍政権の責任はただでは済まされない絶大なものである。そうした観点から、この映画は欠くことのできない作品であると確信している。ひとりでも多くの人たちに観ていただき、安倍政権がいかに無為無策であったか、を強く肌で感じてもらいたい。

元拉致被害者家族会 蓮池 透

それでも人々は異論を唱えることを止めない

アホノミクスの大將すなわち安倍晋三の野望が渦巻いた日本社会は、間違いなく、誠に危うい社会だった。彼はこの 21 世紀において、大日本帝国を復元することを目論んで来た。だからこそ、あそこまで執拗改憲に固執している。アホノミクスには、21 世紀版大日本帝国のために強くて大きな経済基盤をつくるという役割が託された。しかし、異を唱える人々は、安倍政治が紡ぎ出そうとする危うさと、実に果敢に闘って来た。これからも、その飽くなき不屈の闘争が、『2887』の続編の中で語られることを期待する。果敢に異を唱える人々の声が、

同志社大学大学院教授 浜

矩子

自立、そして自律して行動すること！

2012 年 12 月 26 日、第二次安倍内閣が誕生した。そして、公文書改ざん、安保法制の強行採決、国家安全保障戦略等様々な形で民主主義を崩壊させたのである。映画の出演者が警鐘を鳴らす日本の実態は、決して他人事ではない。日本のパラダイム転換を主導するのは国民である。主権を持つ国民が本映画に込められたメッセージを未来の自分の姿と捉え、SDGs が掲げる理念の実現に向け、マイノリティの訴えに頼るばかりではなく、自立・自律して行動することが重要である。

沖縄国際大学講師 大城

尚子

勇気を出して一歩踏み出す

この映画は、「2,887日」におよぶ安倍政権下で、「勇気を出して一歩踏み出した」ものたちによる証言記録映像だ。作品から浮かび上がるのは、安倍晋三自身のお友達や一部の既得権益者の「小さな声」を聞き、責任を取らずにやった振りのみをしていた、やっけー（沖縄口で「厄介、面倒、不快」等の意）安倍政権の姿だ。憲法、原発、拉致問題、経済、辺野古新基地。これらを考えていくときに、安倍政権と向き合うことは避けて通れないだろう。そのときこの映画が、あなたが勇気を出して踏み出す一歩を後押しする一助になれば幸いである。

「辺野古県民投票の会」代表 元山 仁士郎